新築落成記念葉書　大正四年七月五日　鹿島郡豊川尋常高等小学校

昭和45年6月17日　（水曜日）

岡田良一さん（円内）の寄付で出来た運動場で
運動会を楽しむ豊川小・土川分校の児童と父兄

"児童のため"に寄付

石川県中島町・土川分校に運動場

校庭が狭く、ロクに体操も出来ない山の分校生のために約一千平方㍍のグラウンド用地をポンと提供した人がある。子供はもちろん住民たちも大喜び。整地作業が仕上がった十四日、全住民が集まってグラウンド開きを兼ねた運動会を催した。

話題の主は石川県鹿島郡中島町土川の豊川小学校土川分校（田中彰校長）近くに住む岡田良一さん（三七）＝七尾市の北建ブロック会社勤務＝。同分校は町中心部から約六㌔はいった山奥にあり、一―四年までの児童四十二人がいる。山肩を切り開いたわずかな平地に建っているため、約三百平方㍍の前庭がこれまでのグラウンドだった。それも土地の関係で三角形。子供たちは球技はもちろん、カいっぱい駆け回ることも出来なかった。

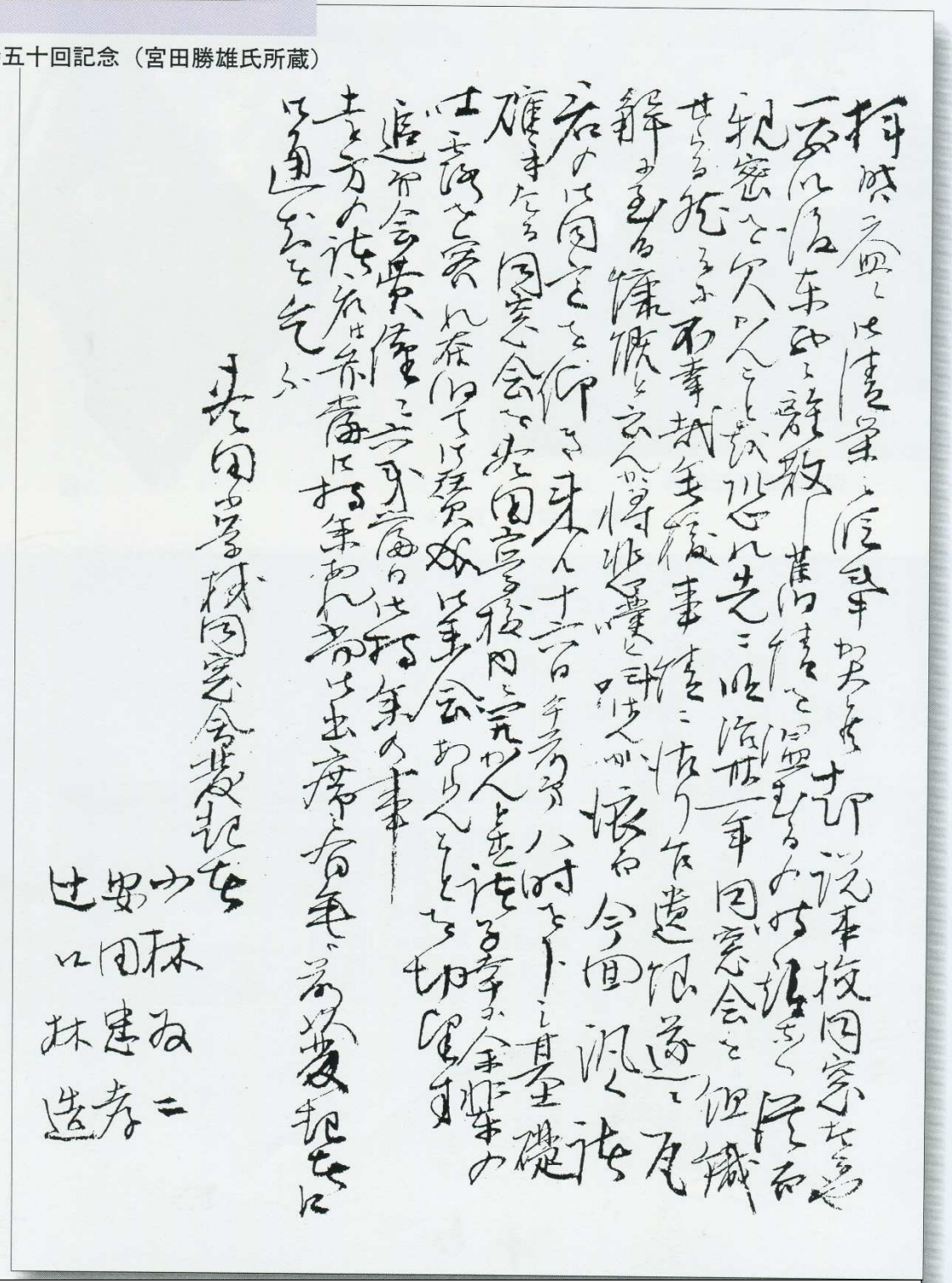
PTA役員たちの間から「なんとかしなければ」との声は出ていたが、町は小学校統合を考えている時期だけに相手にもしてもらえず、やむなくさる三月末、同分校の裏山を所有する岡田さんに荒屋登司男PTA会長が相談を持ちかけたところ、岡田さんは「子供たちのためなら」と、その場であっさり提供を約束した。町の評価だと三・三平方㍍五百円の土地で、金に換算するなら、五十万円になり、同分校始まって以来の大口寄付。

地元で整地奉仕

さっそくブルドーザーで山肩を削り取り、校下住民約百人がクワやスコップで整地作業。丸二月がかりで立派なグラウンドに仕上げた。この日は児童とその保護者約二百人のほか端町長も出席。清水・久麻加夫都神社宮司のお払いで同グラウンドの無事故を祈ったあと運動会を開始、おとなも子供も一緒になって出来たての広いグラウンドで八十㍍競走やパン食い競走などを楽しんだ。岡田さんは「原野だし、他人に売るより子供たちに喜んでもらった方がよいと思い提供した」と話している。

昭和４５年６月１７日　北國新聞記事

同窓会五十回記念（宮田勝雄氏所蔵）



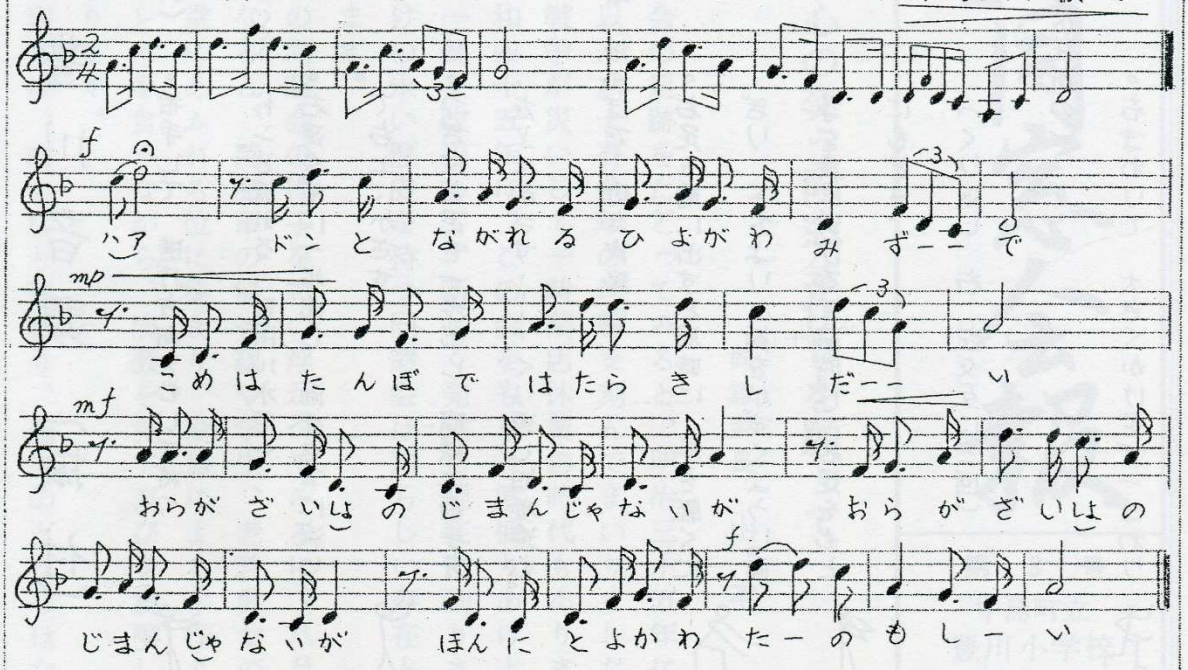
◎明治三十五年八月十六日同窓会発足の案内状（原本）

明治３５年８月１６日　同窓会発足の案内状

豊川音頭

柏屋藤四郎 作詞
文原善衛 作曲
中本文雄 振付

♩=104 野趣をおびて



一、どんと流れる 日用水で
米はたんぼで 働き次第
おらが在所のじまんじゃないが
ほんに豊川 たのもしい

二、山と積まれた 豊川むしろ
売ればふくれる ふところ具合
おらが在所のじまんじゃないが
ほんに豊川 たのもしい

三、山を起して 苗木を植えりゃ
植えた年からずんずんのびる
おらが在所のじまんじゃないが
ほんに豊川 たのもしい

四、すげの日笠を目深かに冠り
娘十八 紅さえつけぬ
村の娘の じまんじゃないが
ほんに豊川 たのもしい

五、嫁をとるなら 豊川娘
マメに働き 情は深い
村の娘の じまんじゃないが
ほんに豊川 たのもしい

六、若い時には 若さに生きて
胸に理想の 炎をもやす
村の若衆の じまんじゃないが
ほんに豊川 たのもしい

七、踊れ豊川 二千の衆が
手足揃えて 皆踊れ
おらが在所のじまんじゃないが
ほんに豊川 たのもしい

豊川音頭
昭和５４年度の社会体育大会で婦人会と豊川小学校高学年の児童が郷土の伝承文化発掘運動の一環として豊川音頭を復活させた。